

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター佐鳴台 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 8 月 19 日 （ 月 ） 14 時 00 分 ～ 15 時 30 分
2 開催場所	佐鳴台協働センター ホール
3 参加者	26名 委員13名（佐鳴台7名、城北地区6名）、関係機関13名
4 協議の内容	1. 開会 2. 挨拶 3. 令和5年度第3回協議体会議の振り返り ・パワーポイント資料を用いて前回の振り返りをした。 ◎前回からの動きについて報告 ・3/28の城北地区自治会連合会定例会へ出向き、協議体での協議内容について、高齢者・単身世帯の考えうるリスクをふまえた上で、今後取り組んでいきたい事柄として、『身近な地域の中での見守り』、『見守りネットワーク活動』など話をさせていただいた。 ・城北地区社協で行われている企画運営会議、家事支援コーディネーター会議に出席をさせていただき、会議の中で防犯についての情報共有や高齢単身者の最近の状況などを共有し、ゆるやかな見守りが行われていることを把握。 4. 地域での見守り事例 ・パワーポイント資料を用いて紹介 5. 各地区でのグループワーク ～地域の中での見守り活動 こんなことあんなことがあった～ 《佐鳴台地区》 ・困っている様子的高齢女性に声掛けをしている若い男性を見かけ民生委員がその場に駆け付け話を聞き、担当地区の民生委員へ相談をつなげた。声掛けをしてくれる地域住民がいる。 ・認知症を疑われる人が近隣への迷惑行為と思われる事象があった。自治会としては困っている家庭の人からの相談であるため、一般的な話として注意喚起もするが否定的な声もあり難しさを感じる。認知症の方が増えていると実感している。 ・シニアクラブやサロンなどの集まりに参加してくれる人はしっかりとしており、その家族も同様。退会時や欠席などの連絡を入れてくれる。どちらかというともそういう場に出てこない人への投げかけが必要。 ・輪投げやロコトレを中心に行っているが、うわさ話や世間話などしている人も多い。このような場に出て、参加者同士で話をすることが一つ生きがいになり、見守りにも繋がっている。 ・民生委員として、見守りのための環境づくりをしているところ。今年からシニアクラブに参加し、住民からの困りごとをすぐに聞き取れるよう取り組んでいる。民生委員として実態調査に行くが、緊急連絡先が更新されていないケースが多い。 ・9月に敬老会があり、対象となる高齢者を1軒ずつ訪問し調査をしている。中には

なかなか出てこない人も多くいる。

地域の活動に積極的に参加している人はすぐに会うこと、連絡が取れることが多いが、なかなか閉じこもりがちの人が増えており連絡が取れないことが増えた。

- ・佐鳴台地区は外国人の高齢者も増えてきている。

今後さらに増えてくることが考えられるが、佐鳴台地区ならではの課題でもあると思う。

・福祉、介護に関する知識がある人は介護が必要となる前に包括に相談をする人が多いが、そういった知識が全くない世帯については困ったときに警察に連絡し、行政に回ってることがある。新聞が溜まり新聞店からあんしんネットワークで相談もある。高齢者の方以外にも知的障害などの人もいる。

- ・毎日付き合いがあれば異変に気付きやすい。特によく会う人だと気付きやすい。
- ・個人情報のことなど色々と課題があるが、近所のネットワークづくりが見守りに繋がっていく。

《城北地区》

- ・民生委員は知っているが、地域住民は知らないことが多くある。

あんしん情報キット（情報を冷蔵庫に格納）についても知らない方も多く、地域の中では周知の必要性を感じていた。

地区社協と連携し、地区社協広報紙にあんしん情報キットの啓発を行うよう調整を図った。

- ・8050世帯 65歳以下は民生委員の調査対象ではなく情報が入りづらい
- 9060世帯なども調査対象でない方は関わりが持ちにくい現状がある。

狭間をどう埋めていくかは課題

・高齢者と暮らしている障がい者 特に障がいの部分は情報が入ってこない。近所の方にも聞くことがあるが、承知をしていないことも多い。

- ・つながられない人、大人の障がい者の情報は入りづらい。
- ・家庭として知られたくない情報もある。70代単身男性で日中は車中で過ごしている方がいる。中々声もかけづらい。城北地区はサロンがあり、サロンの中で情報共有し、お互いが見守りに意識することから始めたらどうか。
- ・見守りについてこういった会議に出ている人は大事なことは理解できるが、地域住民にとっては他人事なのを実態。

・コロナで行事をやっていなかった、若い人たちとのギャップが大きくなっている。地域住民の多くの人の考え方に近づけば近づくほど積極的に推進できない現実がある。

定例の行事を進めることも難しいのが現状であり、他の人を気にし合う・助け合うといった事柄に関しては話題に上がらない。

- ・比較的当地区は生活することに困ることが少ないこともある。

困っている人もいるとは思いますが、あまり表に出ないこともあるのでは。

・高齢の夫婦とも障がいがあり転倒の危険性がある家庭や、かろうじて生活している人も現実にいる。

・サロンにも民生委員がでかけるが、参加される高齢者は地域のことをよく知っているサロンの中では情報が共有されていることが多くある。

・障がい者は特に情報共有が難しい。手を挙げてもらえればつながるのだが、皆がそういった意識にはならないことも少なくない。

・災害時要配慮者リストの中には 運転ができる人なども入っており、敏感に感じている人が「今後心配なので・・・」と手を上げるケースもある

配慮者リストのやり方については課題があると思っている。

- ・要支援者についての情報公開の在り方を検討する時期なのかもしれない。
- 最近は遠方の身内から民生委員に相談が来るケースが多くなっている。
- ある一定の関係者は確認できるサイトなどがあると良いのでは。ICTの活用
- ・サロンの中である程度完結しているのであれば地域の力として良いと思われる。
 - ・近所付き合いについて、個人情報のことなど色々と課題があるが、近所のネットワークづくりが見守りに繋がっていく。

6. 事務連絡

7. 閉会 佐鳴台圏域生活支援体制づくり協議体 会長

5 今後の見通し・ 必要な対応	
------------------------------	--

今回の協議体では、地域の中での見守り活動での出来事などを共有をした。

新たな仕組みを動き出すとなると難しい部分があるが、民間業者でも最近いろいろな見守りの仕組みがある。各町のサロンでスタッフや参加者が少しでも見守りについて意識してもらえるよう働きかけを行っていく。